

研究機関：広島大学

研究課題名	<i>Aeromonas</i> 属の微生物学的特徴が臨床に与える影響
研究責任者名	広島大学病院感染症科 教授 大毛宏喜
研究期間	2018年6月11日(倫理委員会承認後)～2022年3月31日
対象者	2008年1月から2020年12月の間に、広島大学病院で診療を受けられ培養検査により <i>Aeromonas</i> 属を認められた患者さん。
意義・目的	<p><i>Aeromonas</i> 属は、淡水域の常在菌で、河川、湖沼、その周辺の土壌および魚介類等に広く分布している細菌です。この細菌は、下痢症の原因菌として認識されており厚生労働省が <i>Aeromonas hydrophila</i> / <i>sorbia</i> を食中毒菌に指定しています。下痢以外にも壊死性筋膜炎、肝胆道感染や菌血症の原因となり、肝硬変と悪性疾患患者が罹患しやすいと報告されています。近年、<i>Aeromonas dhakensis</i> という種類が新設され、他の <i>Aeromonas</i> よりも重症感染を起こすことが報告されていますが、まだ十分に分かりません。</p> <p>そこで私たちは、診療の中で培養された <i>Aeromonas</i> 属の遺伝子学的手法を用いて菌種同定し、その微生物学的な特徴が実臨床にどのような影響を与えているのかを明らかにするためこの研究を計画しました。</p>
方法	<p>本研究は診療録(カルテ)情報を転記し、患者さんから培養された <i>Aeromonas</i> 属に対して遺伝子学的、微生物学的解析を行います。</p> <p>カルテから転記する内容は、年齢、性別、身長、体重、既往歴、内服歴、血液検査、検出された <i>Aeromonas</i> の薬剤感受性、使用抗生剤、併用治療法です。</p> <p>(個人を特定可能な情報は解析に用いませぬ)</p>
共同研究機関	ありません。
試料・情報の管理責任者	広島大学病院感染症科 教授 大毛宏喜
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel : 082-257-1613 広島大学病院感染症科 教授 大毛宏喜